『入りて学び、出でて奉仕せよ』

国際ロータリー第2510地区
2011-2012年度　ガバナー　**熊 澤 隆 樹**
（小樽ＲＣ）

私達のロータリー年度も残すところ、５月・６月となりました。月信もこれまで10回お届けしてまいりました。これまで、月信そして公式訪問等を通してＲＩのテーマ・方針を伝えてきましたが、それをどう実行するかは、クラブの判断に委ねられています。その事は、１月号で紹介したポールの自伝にも、「いかなる場合にもロータリーはその組織を自治範囲にとどめ、もってその組織内において自由に実験（奉仕）を試みるということを各クラブの特権とすべきである。」とあります。しかし、私は敢えて、**クラブの強化とサポート**というＲＩの戦略計画の三本柱の一番にあげられているということで、ＣＬＰ（クラブ･リーダーシップ･プラン）について各クラブへ検討をお願いしてまいりました。月信２月号で『**ロータリーが安定・成長・成功を遂げるための組織の改変です。**』と述べさせていただきました。

また、前述のポール･ハリスの自伝（ロータリーの理想と友愛）では、『ロータリーの友誼（友情）は果たして真の社会奉仕に到達するものか、あるいは社会奉仕を毀損するものか、「挨拶と集会」とを事とする会員は、口にロータリーの理想を得々と語るが、実は元来個人同士の親密和睦に興じている輩であるのではないか、友誼を内心盛んならしめるとはどういうことか、ロータリー会員とは個人あるいは団体の活動を通して奉仕という理想を成就するため、外観だけの友誼を盛んにしようとして親睦している有力な実業家や専門職業人であるか、ということにある。』と述べており、クラブでの会員の親睦のあり方に問題を投げかけており、ポールは会員の大多数が**ロータリーの事業に参加活動することを願いつつ、その事業を発展させまた興味を生ぜしめるようたえず努力することを良策**とすると、クラブの奉仕活動の有り方について明言しております。

かねてから、私は親睦と奉仕はコインの裏表であり、どちらを表にするか各々期を預かるクラブの会長に判断が委ねられると思っております。

私は今度、第2530地区（福島）への支援活動では、地区奉仕プロジェクト委員会（阪崎委員長）、ガバナー補佐、クラブ会長・幹事そして地区スタッフの皆様に、この奉仕活動を通じて、お互いに深い友情と信頼が生まれたことを強く感じております。

クラブにおいても、地区の奉仕プロジェクト委員会が今度行ったようにクラブの奉仕プロジェクト委員会が職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕・新世代奉仕の四大奉仕部門をまとめて、地域社会のニーズをつかまえて、複数の部門による協力で奉仕活動に取り組めば、それが、戦略計画の第二の柱、人道的奉仕の道を開いてくれることを今度の震災プロジェクト活動を通じて実感しております。また、これからの奉仕活動には、クラブ内の委員会同士の協力そしてまた、近隣クラブとの協力も新しい奉仕活動のあり方を示していることはクラブ公式訪問の中でも、随所に見られました。

最後に、残り２ヶ月、お互い健康に留意して楽しい有意義な年度としましょう。